

## 令和4年度 見附市総合教育会議 議事録

○招集日時 令和5年2月3日（金）午後2時

○招集場所 見附市役所5階委員会室

○会議に付した協議テーマ

## 1 見附市の目指すべき教育環境について

○出席者（6名）

市	長	稲	田	亮		
教	育	長	渡	邊	茂	夫
委	員	小	林	弘	武	
委	員	小	倉	美	砂	子
委	員	齋	木	可	奈	子
委	員	武	田	信	一	

○事務局出席者

教育部長兼教育総務課長	近	藤	芳	生
学校教育課長	佐	藤	昌	弘
こども課長	伴	内	正	美
まちづくり課長	大	野	務	
教育総務課主幹兼課長補佐	湊	屋	一	樹
教育総務課総務管理係長	山	谷	一	憲

午後2時 開会

**教育総務課主幹兼課長補佐**

定刻となりましたので、これより令和4年度見附市総合教育会議を始めさせていただきます。

最初に、市長より挨拶をお願いいたします。

## 市 長（挨拶）

本日はご多用の中、総合教育会議にお集まりいただき、誠にありがとうございます。  
また、教育委員の皆様方には、平素から見附市の子どもたちの教育の充実・発展のためにご尽力を頂き、心より感謝申し上げます。

さて、ご承知のとおり、この総合教育会議は、「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」に基づき設置しており、市長と教育委員の皆様とが協議や意見交換を行い、今後の教育行政や子育て施策に反映させていくものでございます。

市長として就任以来、「暮らし満足ナンバーワンのまち」を究極の目標とし、その中の課題のひとつとして「人口減少」がありますが、それをいかに抑制していくかが大切であると考えています。将来を考えると、子育て世代や若者をターゲットとして見附に住んでもらえる、そして住み続けてもらえるように様々な取り組みを進めていくことが重要と考えています。そのため、「子育てするならやっぱり見附」と言われるまちを目指し、子育て支援や教育の充実に力を入れていきたいと考えています。

しかしながら一方で、急速に進展する少子化により、昨年の国内の出生数は80万人を割り込むと見込まれ、現段階では市内小・中学校でも1校当たりの児童生徒数および学級数が減少していることや公共施設の老朽化が進み施設の適正な維持管理が必要な時代になってきています。

中学校については今後校舎の老朽化にともなう大規模改修が予定され、議会でも中学校のあり方について質疑が行われることもあったこと、また、小学校についても昨年開催した上北谷地区のふれあい懇談会で、小学生の保護者から「児童数が少なく、中学校進学時に不安」との声をいただいていることから、今回の教育会議のテーマは「見附市の目指すべき教育環境について」として開催させていただきます。

本日は、教育委員の皆様と見附市の目指すべき教育環境について、特に義務教育を中心に総合的な観点で意見交換をさせていただければと考えております。本日は、よろしくをお願いいたします。

**教育総務課主幹兼課長補佐**

ありがとうございました。それでは、次第3「意見交換」に移りたいと思います。

教育部長お願いします。

**教育部長兼教育総務課長**

今年度の総合教育会議テーマは「見附市の目指すべき教育環境について」です。市長の挨拶にもありましたように、総合的な観点からいろいろな考えをいただけたらと思います。まずは、見附市の現状について説明させていただき、その後に意見交換を行いたいと思います。

**【見附市の現状について】**

まず、見附市の地区別人口についてですが、市全体では平成24年から令和4年の10年間で2,939人、約7%の人口減となっています。その中でみますと、葛巻地区だけが増加し、他地区は全て減少しております。

また、人口ビジョンにおける年齢区分別人口は、65歳以上の老年人口は横ばい、15歳～64歳の生産年齢人口と14歳以下の年少人口が減少していく推計となっています。

見附市の年齢階層別の人口移動状況を見ますと、14歳以下の年少人口と30～54歳までの現役世代の転入超過が見て取れるかと思います。

**【（1）児童生徒数の現状と今後の推計について】**

次に、児童生徒数の現状と今後の推計についてです。

見附市における「小学校児童数」の平成12年度から令和2年度までの実績の推移は、平成12年度の全体で2,765人から令和2年度には1,857人になり20年で約33%減少しています。

小規模校では、平成12年度に4校で348人から令和2年度には184人になり約47%減少となっています。

続きまして、「中学校生徒数」の平成12年度から令和2年度までの実績の推移は、平成12年度の全体で1,602人から令和2年度には928人になり20年で約4

2%減少しています。

続いて、今ほどのグラフを数字でまとめたものになります。

【資料：「小中学校別児童生徒数 推移・推計」をもとに説明】

住民記録台帳を基にした推計で自然増減と社会増減が反映されない推計になりますが、現状から10年程度でさらに少子化が進み、小学校小規模校では「飛び複式学級」の可能性や中学校でも学年1クラスになる小規模校が出てくると考えられます。

続きまして、小規模校の活動状況につきまして、学校教育課長から説明をお願いします。

### 学校教育課長

#### 【（2）小規模校の活動状況について】

【資料：「みつばプラン校の魅力」をもとに説明】

みつばプラン3校（見附第二小学校、田井小学校、上北谷小学校）では、小規模校の良さを活かしたきめ細やかな指導が行われています。特に学習面では、ひとり一人の学習の分かり方に応じたきめ細やかな指導が行われています。子どもの得意を伸ばし、苦手を補う指導、個に応じた指導に力を入れています。3校とも子どもの人数は少ないのですが、色々な場面で発表する機会があり、しっかり表現する力を付けようと取り組んでいます。

地域との活動においては、学校運営協議会や地域学校協働本部、地域コミュニティと連携しながら、様々な事業に取り組んでいます。

見附第二小学校では、「見附杉沢の森」での取り組みや、「サケのふるさと本明川・刈谷田川」での放流を通して地域とのつながりを深める総合的な学習に取り組んでいます。

田井小学校では、「みつば太鼓」や「耳取遺跡」など地域の文化や遺跡を活用しながら、地域の良さを学んでいます。また「なかよし遠足」では、地域コミュニティからニラ栽培の専門家や地元の和尚様など地域を良く知る方々を紹介していただき、現地を訪ねるという遠足を行っています。

上北谷小学校では、「循環型農業」で自分たちで肥料を作り、稲作活動に取り組んでおり、地元の方が先生となり活動を支えていただいております。

続いて、「みつばプラン事業」について説明します。

【資料：「令和4年度みつばプラン事業について」により説明】

みつば3校は、小規模校のメリットを活かした取り組みを行っていますが、もっと多くの子どもたちと関わる場面も必要なことから、3校合同で活動する取り組みを行っています。

今年度は、小学3、4年生を対象に1人1台のパソコンを用いて3校合同のリモート授業を行いました。6月15日に「外国語活動」、10月31日に「社会科」、1月17日に「総合的な学習」を行いました。子どもたちは最初は緊張していたようですが、徐々に緊張もほぐれ、各校が1時間ずつ授業を受け持ち、工夫した交流活動が設定できました。

次に、「自然体験教室」ということで、小学5年生が夏休みを利用して大平森林公園で自然体験活動を行いました。コミュニケーションゲームやEボート、ウォークラリーなどを3校合同で行うことで、仲間と声をかけ合い、助け合う姿が見られ、絆を深めあう絶好の機会となりました。

次に、「合同体育学習」ということで、小学3、4年生を対象にアルビレックスサッカースクールのコーチの指導による体育学習を行いました。子どもたちは仲間同士の親睦を深めながら活動できたと聞いております。

以上、みつば3校では、少人数ではありますが、各校の良さを活かしながらキラリと光る特色ある教育に取り組んでいます。

**教育部長兼教育総務課長**

【(3) 学校施設の状況について】

続きまして、学校施設の状況についてです。

市では、学校施設を効率的・効果的に維持管理することにより、機能性能レベルの維持向上とトータルコストの縮減及び予算の平準化を図るための長寿命化工事を令和5年

度から名木野小学校で実施します。その後も、老朽化した学校施設の修繕や改築に多額の費用が必要となると考えられ、学校施設の維持管理について検討が必要です。

多くの施設の改修が必要となるとともに、葛巻小学校では教室不足が予測されるため改修工事を予定しているなど児童数の変化にどう対応していくか、財政面からも検討が必要な状況です。

#### 【（４）他市の状況について】

最後に、他市における状況をご紹介します。

東京都品川区では、２０００年度に一定の地域内で通学できる学校を自由に選択できる学校選択制を導入しましたが、２０２０年度に学校区をブロック制から隣接区域制に変更しています。

また三条市では、全市的に小中一貫教育を推進しており、長岡市では、上塩小学校を栃尾東小学校と統合する動きがでています。さらに柏崎市では、高柳小学校と鯖石小学校の統合を見直すといった報道がされています。

以上、主に児童生徒数から見た見附市の教育環境について、説明させていただきました。見附市の目指すべき教育環境について、意見や感想、聞いてみたいことについて発言をお願いいたします。

#### 市 長

少し補足しますと、今回このテーマを取り上げた理由は、各自治体でも大きな課題で慎重な対応が必要となっている児童数の減少についてどうしたらよいかということです。見附市では、ほとんどの学校で児童数が減少してますが、小規模校では特色ある取り組みをおこなっておりメリットもあります。しかし、小学校だけでなく中学校も含め、大規模校の方が教育的には良いという意見もあります。

その一方で、学校施設の老朽化も大きな課題であり、特に昭和５１年と昭和５３年に新築した中学校２校は、大規模改修の時期が迫っているが改修費用もかかるため、そろそろ議論しておく必要がある時期に差し掛かっていると思います。

市では何も方針は決めていませんが、教育委員の皆さんからもご意見をいただきたい

と思います。

### 小林委員

このテーマについては、前から気がかりになっていました。

私が教育委員になった十数年前、小規模校の周年祭などの催事に出席した際、地域の方々と話をする機会があり、地域の方々からは「学校は地域コミュニティの核である」という話を聞き、学校への熱意を感じました。

当時、教育委員会としては、今のところ統廃合は考えていないと言っていたのですが、地域の方々にとっては大きなテーマであり、地域ではその時々で話題になっていたのではないかと思います。

その後、地域の方々がこのテーマについてどう考えているのか聞く機会はなかったのですが、課題としては年々緊急性が増していると思うので、校舎の建て替えや取り壊し、利用し続けるなどの方向を決めることや、その学校をどうしていくのかをそろそろ話す時期に来ていると思います。

先ほど、三条市では小中一貫校の取り組みを進めているなど、他市の事例紹介がありましたが、統廃合は都会では人口の移り変わりが激しいので当たり前になっています。20～30年前、横浜市の知人の話で、当時、高校受験した自分の子どもが数年後に統廃合が決まっている高校を受験することになった話を思い出しました。

「出身校が無くなるのは切ない」「学校を残したい」という気持ちがある一方で、何かしら手を打たざるを得ない状況になっているのは仕方ないと思います。児童生徒数が3割・4割減ったデータを改めて見せられると驚いてしまいます。むしろ「学校をまとめる」と言ったらどうまとめていくのかなど、データを基礎にしてそろそろ叩き台を組む必要があると思います。

### 武田委員

資料の児童生徒数データを見ると、宅地造成された地域の児童生徒数が増えています。駅や道路など利便性を考えると、葛巻地区が増えていることは納得できます。

先日テレビ番組で、岡山県の出生率が高く、人口も数年前から増えている、という情

報を知りました。6,000人しかいない町で、小学生と40代が増えている地域があります。

見附市は町部と山間部で街の様子が違うが、他市の事例を参考に取組んでみてはどうかと思いました。

宅地が無いから人が来ないということであれば、例えば山間地域に宅地造成してみるとか、数年前、三条市の山間地域にキャンプ場がオープンしましたが、最近はや若い人の間でソロキャンプが流行っており、キャンプ好きの都会の人が田舎に引っ越して来るといった話も聞くので、そういう人をターゲットにして子どもを増やしていくこともできないかと思います。

統廃合は、子どもが少ないからやらざるを得ないことであり、考えなくてもやれることだと思います。

## 市長

武田委員の意見にありましたが、宅地造成については、見附市では開発しつくされていることもあり難しい課題です。一方、中心市街地の活性化やウエルネスタウンの売れ残りなどの課題もあり、若い世代の方々を呼び込むためにどうするかについては、手を打っていきたいと思っています。

資料の人口移動状況を見ると、子どもたちは転出より転入が多くなっていますが、出生も含めると減っている状況で、今後は出生率増加も含め、更に市外から人を呼び込まないと、もっと減っていくという状況です。

小林委員からは、10数年前は市として統廃合はしないという話がありましたが、私がこの1年間色々な方から話を聞いた中では、「大きな学校に行きたい」という人もいて、ということが分かり驚いています。

令和4年12月議会で、現時点で市としては統廃合は考えていないが、色々な意見もあるため、声をしっかり聞いて今後の対応について検討していききたい旨の答弁をしました。来年度あたりから、様々な声を拾うことから始められないかと考えています。

## 教育長



現段階では統廃合は考えていないが、子どもたちにとって、よりよい教育環境は考えていかなければならないと認識している、と答弁しました。

これからの見附市の目指すべき教育環境はどうあるべきで、どう考えていくかの議論を進めていく機会がこれから必要かどうか、まずはそれについて皆さんのご意見を伺い、受け止めていかなければならないと思っております。

いずれにしてもこの先を見たときに、見附市の目指すべき教育環境を何らかの形で考えていく必要があると考えていますので、教育委員の皆さんからもご意見いただければと思います。

### 小倉委員

見附市は地域コミュニティを組織し、地域のまとまりが良く「地域で子育てをするんだ」という意識が強い地域だと感じています。

学校の統廃合の中で何か課題かというところ、地域コミュニティとのコミュニケーションが一番ネックになるのではないかと考えています。

子どもたちはそれぞれで、小規模校の方が学びやすい子、大規模の方が学びやすい子、様々で、大人数の方が必ずしも学力がつく、人間として成長するとは限らないと思います。

資料を見ると、小規模校もメリットがあつて良いと思いましたが、デメリットを見ると小規模校なりの悩みも抱えていることが分かりました。

市長がふれあい懇談会で参加者から聞いた、子どものことを心配している保護者がいるということですが、それも以前から囁かれていたことだと思います。

小規模校から大規模校に進学した時のいわゆる「中一ギャップ」を心配している保護者は、以前からいたと思いますが、2年3年と進むにつれ、大人数の中での自分を確立していく子どもが育っていたのではないかと思います。

現在、ICT教育でタブレット端末を子どもが1人1台ずつ持っています。先日、みつば3校合同のサッカー教室を見学しましたが、その日は初めて3校集まったにも関わらず、とても纏まっていると感じました。それは、事前にタブレット端末を使ってコミ

コミュニケーションを取っていたからだと思いますし、様々なツールを活用していくことも大事だと思いました。

不登校でもICTの活用が取り組まれている中で、これからの子どもたちはデジタルツールを使いこなしていくことが、将来的に社会の中で生きていくために必要な気がします。

人と人のコミュニケーションはもちろん大切ですので、統廃合については慎重に考えていく必要があると思います。

見附市の第5次総合計画策定時は、今後見附市の人口を5千人増やす計画があったと思うが、逆に減っている現状です。これは、見附市だけでなく全国的な状況だと思いますが、人口を増やすには、若者世代や婚活世代などが家庭を持って子育てをするんだ、という意識が希薄になっている気がします。適齢期になったら結婚するというだけでなく、小さいころからどう成長していくか、というような子どもたちへの環境づくりが大切だと感じています。

#### 市長

家庭でやることなのか、学校教育でやることなのかは分かりませんが、子どもに対する意識付けは大切だと思います。これだけ異次元の少子化対策と言われているので、国も力を入れていくと思います。

#### 小倉委員

外から人を呼び込むだけでは、日本全体の人口は増えません。

企業では人が増えないから、ロボットに頼るなど危機感を感じるのです。

#### 市長

高齢者を支えていくだけの働き手がいないと国が成り立っていきません。海外から人を呼ぶという手段もありますが、機械は効率的になる部分はあるかもしれません。

そういうことでは、海外から人を呼ぶか、少子化を解消して人口を増やすかどちらかしかないと思います。

#### 小林委員

今日のテーマから少し離れますが、先日テレビで、若者が海外で働く様子が放送されていましたが、介護施設で働く20代女性のケースで、日本でいくら給料をもらっていたかの質問に、フルタイムで残業もこなして26万円くらいと言っていました。オーストラリアでは80万円くらいもらえるということに驚きました。

何年間か海外で頑張ってお金を貯めて日本へ戻るというシステムを作りたいと言っていました。日本と海外の給料がそんなに違うのはなぜなのかと驚きました。若者を外から呼び込むことは、見附市としても喫緊の課題だと思います。

子育ての課題で言えば、各市町村も様々な策を掲げていると思いますが、実際お父さんもお母さんも働いて子育てすることはなかなか大変な時代だと思います。

#### 市長

少子化対策として見附市が何をやるかというテーマでも、今後議論してみたいと思います。

#### 小倉委員

今後、小学校に進学する子どもの人数を見ると、小規模校では1名という年もあることから、今後統廃合も視野に入れていかなければならないと感じました。

改修についても、せっかくお金をかけて改修しても、統廃合で学校がなくなったということになりかねないと思います。

#### 市長

ですので、このタイミングで議論する必要があると思ったのです。

#### 齋木委員

全国的にも議会などで、市民が注目している議題に対して「現在考え中ですのでベストを尽くします」というような答弁があります。今は仕方ないが、それがずっと続くようでは、子育てしている親としては不安に感じると思います。

今、柏崎市の学校統合が話題になっていますが、情報が行き交わず、市と住民との声が合わさっていないと感じます。

統廃合するにしても、みつばプランの取り組みはメリット、デメリットありますが魅

力的だと思います。私も小規模校の子どもたちと関わる機会がありますが、小規模校の良さがあることを実感しています。

実際通学している子どもたちの中から出てくる良さや、保護者が感じている良さなどが、同世代の保護者で共有できているかという点、大規模校の保護者からみると「小規模校って大変だね」という気持ちはあると思いますし、大規模校に通学できるにも関わらず、小規模校に通っている保護者の苦勞も、また良さもあると思います。

想像ではなく実際の声を集めて、「大規模校の良さや『みつばプラン』の良さ、どちらの良さも捨てがたいので今検討しています」ということを発信できれば、保護者も安心でき、次のステップに進んでいけるのではないかと思います。

#### 市長

スケジュール感も含めて情報をしっかり示していきたいと思っています。例えば、本日も配布した資料のような情報はどのような情報でしょうか。

#### 齋木委員

メリット、デメリットという書き方は、保護者の声なのか、子どもたちの声なのか分からず、行政からの視点という受け止め方をしてしまいます。情報の発信の仕方を変えるだけで、市もしっかり考えていると受け止めてもらえると思います。

#### 市長

できるだけ、声に基づいた発信の仕方を考えていきたいと思っています。

#### 齋木委員

市もしっかり考えているということが、保護者にしっかり伝われば、その周りにも伝わり広がっていくと思います。

#### 市長

まだ声を拾い切れていない部分があると思っています。

#### 武田委員

資料を見ると「みつば3校」は魅力的に感じますが、子どもが少ないということは、保護者数も少ないということです。小学校のホームページを見ると、学校の取り組みに

協力している保護者のコメントも載っていますが、「この活動は人数的にも厳しいので、もう止めましょう」という意見もあります。人数が少ないため実施できない活動も、今後増えていくのではないかと思います。保護者としては自らも学んだ学校でもあり、やりきれないと感じていると思います。

#### 学校教育課長

全ての声を拾っているわけではないのですが、自分たちの地域の学校を大事にしたいという思いで、PTA活動などに取り組んでいただいている保護者が一定数いることは聞いています。

#### 小倉委員

私の知人の話で、小規模校に通うことで、大勢の中では自分を出せなかった子どもが、喜んで学校に行けるようになった、という保護者もいるようです。それぞれの選択肢はたくさんあって良いと思います。

小規模校とはいえ、合同で活動できる場もありますので、コミュニケーション能力が極端に落ちるなどのデメリットは、あまり気にしなくてよい気がします。子どもたちは家にいても意外と孤立している場合もある。大勢で騒ぎたい子どももいれば、ひとりで静かにしたい子どももいて、それが個人の特性になっていくと思うので、色々選択肢はあってよいと思います。

ただ、学校運営面でのコストや人材など、教員も減っているということを聞きますので、これから人材が確保できず、小規模校に配属になる先生も段々減ってくるのではないかと思います。

#### 市長

コスト面で言うと改修費も含め、統廃合した方が維持費は低く抑えることができます。

#### 小倉委員

でもとても大事な部分だと思います。

#### 市長

もう少し示してもよいのか悩ましい部分ではあります。

**小林委員**

示してしまうと、一気にその方向へ向かってしまう市民も多いのかも知れません。

先生にとって大人数に教えることと、少人数に教えることは、どちらがどういう結果が出ますかと考えると、少人数に教える方が結果は出せる気がします。これが6年間積み重なることを考えると差は大きい気がします。これもよし悪しなので、一概にどちらが良いとは言えないと思います。

**齋木委員**

小規模校の良さがあるのだから、小規模校に通いたいという人も増えていった時に、何がネックになっているのか気になります。例えば、児童数が増えていて教室が足りない学校もあれば、児童数が減っていて教室が余っている学校もある。それならみんなが小規模校に移ればよいと思うのですが、毎日の送迎などを考えるとそうもできない部分があります。

良さがあるから残したいし、良さがあるなら増えるはず、良さに魅力を感じて移る人もいるはず、なのにそこに行かない現状がある。例えば、スクールバスを出すなど、色々な方法を探っていけると、もう少し小規模校が生きてくるのではないかと思います。

**市長**

通学の手段は、もう少し議論していく必要があると思っています。現在は一定の距離基準を設けてバスを運行していますが、もし変えるのであれば、通学のあり方についても意見をいただかなくてはならないと思います。

**教育長**

みつば3校の話が中心になっていますが、中学校の現状も踏まえて、見附市の目指すべき教育環境づくりについて何かご意見はありますか。

**教育部長兼教育総務課長**

令和3年に生まれた子どもが中学生になる時には、推定で1学年1クラスになる学校も出てきます。そうすると、教科担任が全教科そろわない状況になってしまう、ということが10年後現実的に見えています。そういうことも踏まえながら、中学校も長寿命

化で修繕しても良いのか悩んでいます。

#### 齋木委員

私はその中学校区に住んでいますが、隣の中学校も距離的に変わらないので、どちらに通っても良いと思っています。また、距離が遠い山間部の子どもは自転車通学や冬期はバス通学ですので、そのままバスに乗っていれば隣の中学に通うこともできます。これだけ人数が減ってしまうのであれば、中学は部活動で体を動かしたい子どももいると思いますし、地域の問題もあるとは思いますが、距離的にはそれほど問題ないと思います。

#### 市長

見附市は、他市に比べればコンパクトな街ですので、市内であればどの学校でも行ってしまうのではないかと思います。

#### 齋木委員

統廃合となった時は地域の皆さんの協力も必要ですし、見附市はコミュニティが強いつながりができていますので、地域に中学校があるか、ないかでそんなに変わってしまわないと思っています。そのくらいのコミュニティのつながりができていると思います。そのへんが、話の持って行き方だと思います。

#### 市長

持って行き方はあると思います。

どちらかという今、施設の老朽化の観点があるのは中学校です。コミュニティとの関係は、どちらかと言うと小学校であって、中学校とは大きな関係は持っていない気がします。色々な生徒と触れ合っただけでメリットが高いのは中学校ではないかと思います。

#### 武田委員

みつば3校の子どもたちは、中学校に進学してから中一ギャップで不登校になる子どもは多いのでしょうか。

市内には1小学校1中学校の地域がありますが、高校に進学したときに馴染めない子どもが多いことを身近に感じています。

今の現状は住んでいる地域で中学校が分かれています、みつば3校の子どもも、中学校で分かれてしまう子どももいると思います。

**教育長**

1 小学校1 中学校の地域では、同じ学年の子どもは9年間全く変わらないということです。

**武田委員**

ですので、そこで人間関係がこじれると、9年間引きずってしまうことになります。

**教育長**

小学校の目指すべき教育環境と、中学校の目指すべき教育環境は、分けて考えていくことが必要でしょうか。

**市 長**

市民に尋ねるには、分けて考えた方が良くもしいないと思っています。

**武田委員**

違いのひとつに受験があると思います。子どもたちを見ている、それだけで方向性が今までと変わってしまったということも目にします。

**教育長**

中学校の目指すべき教育環境を考えるうえで、こんな環境ができると良いというご意見、こんな視点から考えると良いというご指摘などいただくとありがたいところです。

**小林委員**

数が揃わなくなることは仕方がないことですので、コンパクトな街の中にある利点を活かして、4 中学校が交流できるような仕掛けを作っただけは難しいでしょうか。

**小倉委員**

小学校であれば、全市の6年生で陸上大会をやったり、文化ホールで音楽発表会をやったりしますが、中学校は、全市を挙げての活動が学校行事の中にはあまりなく、学校独自の活動がメインになっている気がします。

**武田委員**



廃止になった行事もあります。

昔は中学校対抗の陸上大会もあった気がしますが、今はなくなってしまいました。

#### 教育長

今は部活動の大会レベルの行事しかありません。

#### 武田委員

小学校の市内水泳大会も今はなくなってしまいました。

色々な活動が廃止や縮小になっている気がします。

#### 小倉委員

中学校はこれから部活動のあり方が変わってきますので、各校の交流は今までよりも強くなっていく気がします。

#### 学校教育課長

同じ種目の子どもたちが市内から集まって活動するようになれば、学校間の交流は今以上に増えるのではないかと考えています。

#### 小倉委員

今ある小学校区単位で中学校区を作っていく、という括り方でなくてもよい気がします。

#### 市長

部活動は徐々にではありますが、地域でやっていく方向になっていくと思います。そして、市内一緒に活動していくことになると思います。

課外活動はあまり気にしなくても良いと思いますが、それ以外の教育の部分で、例えば中学校の授業とどう関係しているのでしょうか。

#### 学校教育課長

今、学校の中でも求められている部分としては、協働的な学びというところで、複数の意見を聞きながら自分の考えを作っていくことが大事になっています。

ただし、ICTがこれだけ行き渡っていると、また違った形の交流もできると思います。

単純には、授業をする先生が少なくなつては学校としては苦しいと思います。

#### 齋木委員

私も同感です。

小学校であれば全教科を教えることができる先生がどの学校にもいるが、中学校は専門の先生に教えてもらっていると思います。ですが例えば、今週は隣の中学校の先生から来てもらって教えてもらうということになれば、中学は多感な時期ですので、コミュニケーションという面では、色々な方の目が有って育っていく中学校時代であって欲しいです。何となく、教師と生徒の間がガタつくような環境になって欲しくないと思います。

#### 市長

そうすると一定規模の人数がいる方が良いということになってきますね。

#### 学校教育課長

1学年2クラスくらいで推移すると良いのですが、例えば国語の先生が休んでしまった場合、すぐに代わりの講師が来てくれるかは難しいところです。そうすると教頭先生が教えるといったことがでてくることになります。

#### 齋木委員

そういう面で言うと、中学校の方が見えてくるのが早いかと思います。そうすると市民の皆さんが共有する時間が大切だと思います。

#### 市長

市民の皆さんにニュートラルに聞いて分かるかどうか。今のような意見が出てくるかどうか、どうでしょうか。

#### 齋木委員

発信の仕方だと思います。

#### 小倉委員

老朽化している学校は長寿命化改良工事が必要とされているとのことですが、工事には莫大な費用がかかると思います。

**教育部長兼教育総務課長**

現状は、かなりの施設が痛んでおり、学校からは早く工事をして欲しいという声ももらっています。概算ですが、ある学校では14億円程度かかるのではないかと試算しています。

**市長**

そういうことでは、タイミング的には中学校が急がれる気がしていますが、いずれにしても方向性を決める必要があるということです。

**小倉委員**

私の出身中学校は廃校になりましたが、地域に新しい中学校が新設され立派に活動していますので、廃校になった悲しみよりも新しい学校の活動報告が嬉しく、また期待感を持っています。地域の人が自分の出身校がなくなることは、一時的には悲しい気持ちがあるかもしれませんが、そこからどうやっていくかによって、統合されたことによって今は活躍できて良かったと思えるような学校づくりができれば良いのではないかと思います。

個人的な意見としては、見附にいればコンパクトシティの特性を活かして全市を見渡せるので、そのようなまちづくりができれば地域の方々も納得していただけるのではないかと思います。

**武田委員**

今すぐ必要な長寿命化の修理は、進めなければいけないのですか。

**市長**

それを着手する前に判断しておく必要があると考えています。

**教育部長兼教育総務課長**

今、長寿命化として出ている計画では、令和6、7年度に名木野小学校を改修することになっていますが、それ以降は、令和6年度頃に計画の見直しをおこなうことになっています。それに向けて、今から先を見通しておきたいと考えています。

**武田委員**

現状の修繕方法は、事後保全型でしょうか。

**教育部長兼教育総務課長**

その通りです。今までこの方法でやってきましたが、もうその時代ではないということで、予防保全しながら長く使えるようにしていく方法がこれからの考え方です。

**市 長**

その方がトータルコストが安いと、予防保全型でないと国の補助金が出ないようになっています。

名木野小学校はこの計画に沿って長寿命化を行いますが、それ以降については計画の見直しをかけたいと考えています。

**教育部長兼教育総務課長**

参考までにお伺いしたいのですが、他市の事例で品川区の学校選択制を紹介しましたが、希望すれば他の学校に通っても良いのではないかとこの考え方はどのように感じるか、感想をいただければと思います。

**武田委員**

小学校、中学校含めてということでしょうか。

**教育部長兼教育総務課長**

今想定しているのは、大規模校に行きたいという人がいるのであれば、それを認めるかどうかというところです。

**市 長**

どちらかというところ、小規模校、大規模校が分かれている小学校の方が考えられるのではないかと思います。

ただし、完全フリーとすると運営上大変になるかもしれません。品川区も現在は、隣の学校であれば認めているようです。

見附市ではみつば3校は、市内どこからでも通えるようになっています。小学校については、喫緊の長寿命化改修はありません。

**齋木委員**

子どもたちの立場になってみると、小規模校が合う子どももいますが、複式学級で学んでいることで、少し混乱してしまうタイプの子どもは、そのルールによって出られないのであれば、少し違うかなと思います。ですので、小規模校から大規模校で、複式ではない学校で学びたいのではないかと思います。

## 市長

まさに、ある小規模校で聞いた意見がそれでした。

## 小倉委員

コミュニケーションが苦手な子どもが増えている気がします。成長して大勢の社会に出たときに、小規模校で学んでいて大丈夫かという保護者の不安があるのではないかと思います。

見附市は、みつばプランがあり、複式学級の学校でも交流を盛んに行おこなっているので、少人数で学んでいるという感覚は、子どもたちにはないのではないかと思います。

## 学校教育課長

確かに複式学級は、半分授業やっている時は、半分自習している場合もありますが、逆にそのことによって自分で学習する力がついて、学力が高いというメリットもあります。必ずしも複式学級がふたつに分かれているかという、例えば最初の年に3年生の授業をやって、次の年にみんなで4年生の授業をやるなど、算数と国語はできませんが、他の教科はそのような形で工夫しながらやっています。

ただ保護者の中には、もっと大人数の中で色々な社会性を身につけたいと思っている方もいるようです。

## 小倉委員

選択肢は多い方が良いですが、運営もしていかなければならないですし、なにより教員が確保できるかどうかも課題です。

選択肢を選ぶには、その学校に通う通学手段も関わってくると思います。その制度がしっかりしていれば、他の学校に通わせたいという保護者も出てくると思います。

今みつば3校は、原則保護者が送り迎えをしているのですよね。コンパクトな見附市

ですので、中学校を統廃合するとしても通学手段が確保できれば、可能性はあると思います。

#### 武田委員

中学生は部活動の影響で、送り迎えの時間が読めなくなるということを痛感しています。小学生のうちは比較的終わる時間が一斉ですので、スクールバスを出すことは可能ではないかと思います。予算の課題もあると思いますが。

#### 市長

今はお金以上に運転手がないことが課題です。バスもタクシーも含めて、運転手がないから事業を断念しなければならないという事例もあり、今市としての大きな課題になっています。

現在は、コミュニティがワゴン車で対応している地域もあり、ガソリン代程度を市で支援しています。

#### まちづくり課長

10人乗りのワゴン車で対応しており、コミュニティで運行している地域もあれば、PTAが有志で運行している地域もあります。市内では3地区が中学生の送迎を行っています。

#### 市長

運転手の担い手がないことで、運行していない地域もあります。

#### 教育部長兼教育総務課長

いろいろな意見を出していただきましたが、まずは市民の皆さんの声をお聞きすることが大事だというご指摘をいただいたと受け止めました。将来の見附市の目指す教育環境について、来年度に広く市民の声を聞く場を設け方が良いのではないかと、という意見でよろしいでしょうか。

(複数委員から「良いです」の声あり)

ありがとうございました。それでは、最後に市長から一言お願いします。

#### 市長

本日はご議論いただきありがとうございました。

学校のあり方、教育環境のあり方は、全国的にも話題となりますが、子どもたちの一番基本的な部分ですので、今日いただきました意見を踏まえて、しっかり市民の声を拾うことから入っていきたいと思います。

その過程で、また教育委員の皆さんにもご相談させていただきたいと思いますので、ご意見いただければと思います。

本日はありがとうございました。

**教育部長兼教育総務課長**

以上で今年度の教育総合会議を終了させていただきます。本日は長い時間ありがとうございました。

午後3時45分 閉会